

河内長野ガスグループ

CSRレポート2017



I N D E X

I. 社長のメッセージ／「CSRレポート 2017」 について(作成意義)	1
II. 私たちの約束(行動指針)／トピックス	2
III. 環境貢献への取り組み	3
1. 省エネ・環境性を配慮した社屋		
2. 社内活動		
IV. 地域貢献への取り組み	6
1. 地域防災への取り組み		
2. 地域とのふれあい		
3. 次世代育成の推進		
V. コンプライアンスへの取り組み	14
1. コンプライアンス会議		
2. コンプライアンスアンケート		
3. コンプライアンス研修会		
4. コンプライアンス相談窓口		
5. CSR 活動と河内長野ガスグループの地域社会に必要と される決意		

I. 社長のメッセージ／「CSRレポート
2017」について（作成意義）



○ Top Message 社長メッセージ

——地域と共に成長を目指す——

平素は河内長野グループの事業に格別のご支援をいただき誠に有難うございます。

さて、この度、当グループの2017年度のCSR活動がまとまりましたのでCSRレポート2017として配布させていただきます。是非、ご一読いただきますようお願い致します。

2017年度においても前年同様、地域の企業として広くて深いCSRの世界の中、どうCSRと向き合い、取り組むべきか、模索が続いているのが実感です。地域でのプレゼンスを高め、お客さまに支持される企業グループを目指し、今年度も地域の活性化、街づくり、環境保全、各種団体へのボランティア参加等に取り組んでまいりました。

今後も、是非、地域の皆さまからご意見を頂き、より地域の企業としてお役に立てるCSR活動を進めていきたいと考えております。引き続きよろしくお願い致します。

2018年11月30日

河内長野ガス株式会社
株式会社リビングセンター長野
代表取締役社長

山本明彦

「CSRレポート2017」について（作成意義）

私たちは、自然に恵まれた河内長野で天然ガスの供給を通じ、地域の皆さまの快適で安全な生活をお届けして参ります。また、エネルギー供給会社として、河内長野市、ひいては南河内全体の地域の発展や社会・環境問題に取り組み、皆さまに信頼され安心していただけることが、河内長野ガスグループの社会的責任を果たすことと考えています。私たちはその実現のため、5つの約束を行動指針として遵守致します。

Ⅱ. 私たちの約束（行動指針） ／トピックス



私たちの約束（行動指針）～地域のお客さまの笑顔が見たい～

- 1 私たちはお客さまの安心・安全を第一に行動します。
- 2 私たちはお客さまに健康で快適な生活をご提案します。
- 3 私たちは住みよく、誇りの持てる街づくりに貢献すると共に、緑にあふれたこの街を未来の子供たちに残します。
- 4 私たちは思いやりと切磋琢磨が交差した働き甲斐のある企業をつくります。
- 5 私たちは法令を遵守し高い倫理観を持って、社会人として責任ある行動をとります。

私たちは、地域の皆さまに役立つ企業であるため、「私たちの約束（行動指針）」のもと、取り組んできた3つの活動をこのレポートにまとめました。そして、2017年4月から始まりました「ガスの自由化」において、皆さまに選ばれる企業を目指し、努力して参ります。

Ⅲ. 環境貢献への取り組み

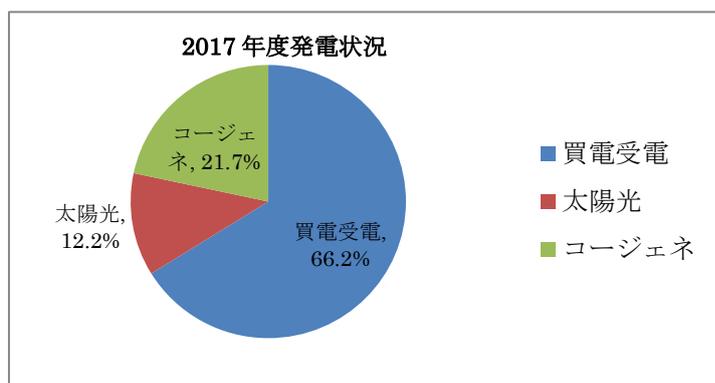


エネルギー供給会社として、限られた資源を有効に活用するため、省エネに配慮した社屋を基点に、環境との調和をはかる活動を行います。

1. 省エネ・環境性を配慮した社屋

(1) 自家発電

河内長野ガスグループは、社屋屋上に 20kw の太陽光パネル及び 35kw のガスコージェネレーションシステムⁱを 2 台設置し、自家発電により社屋で使用する全電力の約 3 割をまかなっています。



(2) ISO50001 認証によるエネルギー管理

河内長野ガスグループは、2014 年 5 月に完成した社屋に、電力の使用量やガス・水道の使用量をトータル的に管理できる BEMS (ビル・エネルギー・マネジメント・システム) を採用し、エネルギー使用の詳細データの収集と“見える化”を図りました。エネルギー使用を“見える化”することにより合理的に管理し、エネルギー使用の削減を目指します。その 1 つの手段として、2014 年 2 月にエネルギーマネジメントシステム (EnMS) の国際規格である ISO50001 を認証取得ⁱⁱいたしました。これまでの地域に根差した都市ガス事業者としての環境貢献に加え、エネルギー使用の効率化、削減に努めております。

ⁱ ガスを使用してエンジンを稼働させ電力と温水の 2 つのエネルギーを取り出すシステム

ⁱⁱ 2018 年度以降は、ISO50001 を返上し、自主的な管理をしていく予定です。

エネルギー使用実績 対前年比較 (単位 MJ)

月	ガス								電力								気温	
	空調		一般		コージェネ		コンセント		照明		換気		空調		サーバー		2016	2017
	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017	2016	2017		
4月	5,265	8,685	23,400	26,640	60,435	62,955	37,108	38,394	39,222	41,206	26,550	29,651	14,516	18,195	31,356	35,074	21.3	20.3
5月	42,435	39,015	21,915	23,085	70,605	69,435	36,191	38,514	39,272	41,685	40,259	34,197	16,401	18,425	34,077	38,205	26.7	26.2
6月	69,480	64,710	19,080	20,250	82,395	78,615	36,331	37,547	41,146	42,472	39,013	37,866	21,106	22,054	34,536	38,783	27.9	27.8
7月	122,130	126,765	18,090	15,930	89,415	77,130	37,058	37,108	41,744	41,645	57,906	36,769	20,708	21,605	39,950	43,150	33.4	33.7
8月	130,590	129,825	18,045	21,060	86,040	73,665	37,158	37,507	39,531	39,960	56,420	26,440	21,356	21,256	41,675	43,868	34.9	34.3
9月	88,290	84,825	18,675	16,290	90,945	91,170	35,503	35,633	42,871	44,087	53,569	45,533	18,654	19,960	38,155	39,930	30.0	28.2
10月	38,250	25,155	22,185	22,635	80,280	87,975	36,221	38,923	44,426	48,355	39,362	46,490	16,879	17,537	37,437	39,003	24.2	20.9
11月	9,135	22,230	26,100	22,365	67,230	79,020	38,225	37,358	44,426	45,314	15,503	36,560	16,889	16,939	34,058	36,251	16.5	15.8
12月	35,235	55,800	30,780	32,850	70,830	69,030	39,611	41,884	44,237	44,666	21,077	16,660	21,954	20,249	36,042	38,564	12.2	9.2
1月	71,550	78,660	31,905	31,005	68,310	66,780	39,780	41,455	42,313	42,093	21,416	17,059	22,642	20,877	37,527	39,501	8.6	7.2
2月	63,180	71,865	29,385	28,980	62,010	58,320	36,739	38,006	40,059	40,089	18,634	15,503	19,900	18,664	34,157	35,533	9.3	8.2
3月	42,390	21,645	31,275	27,045	63,180	63,855	40,947	41,056	44,327	44,386	16,889	26,839	22,403	17,866	36,590	37,846	12.9	16.4
合計	717,930	729,180	290,835	288,135	891,675	877,950	450,872	463,385	503,574	515,958	406,598	369,567	233,408	233,627	435,560	465,708		

※2016年度と比較し、2017年度のエネルギーの使用量が、照明やコンセントにおいて年間を通して増加している一方、換気の運転を手動に切り替え、使用時以外は消すようにした結果、電気使用量の削減が確認できました。空調も温度設定（冬期 20℃、夏期 28℃）を決めた結果、月によっては一定の効果があつたようですが、全体的には増加いたしました。

※赤字は対前年増加。

2017年度エネルギー使用量目標進捗

	平均最高気温 2017年度実績	2017年度目標 (MJ/m ² ・月)	2017年度 使用量実績 (MJ/m ² ・月)	2016年度 使用量実績 (MJ/m ² ・月)	2016年度との 比較	備 考
	X	Y	y'			
4月	20.3	88.57	88.84	59.28	150%	空調電力、照明、 コンセントの電力消 費が多い。昨年度よ り増加している。
5月	26.2	105.43	102.89	79.76	129%	
6月	27.8	112.98	116.85	95.80	122%	
1Q		306.98	308.57	234.84	131%	
7月	33.7	143.01	140.61	122.05	115%	換気の電力、空調のガ スは削減できた一方、 空調電力、照明、コ ンセントの電力消費が 多く、目標達成でき なかった。
8月	34.3	145.57	139.74	124.10	113%	
9月	28.2	114.99	128.51	105.94	121%	
2Q		403.57	408.86	352.08	116%	
10月	20.9	89.31	110.16	81.19	136%	第3四半期は、換気電力 も前年度を上回り、相 変わらず空調電力、照 明、コンセントの電力 消費が多い。
11月	15.8	90.82	100.91	62.57	161%	
12月	9.2	114.21	114.44	81.93	140%	
3Q		294.33	325.51	225.68	144%	
1月	7.2	123.30	121.92	99.14	123%	照明、空調電力、換気 電力が昨年を下回る月 が目立つ。しかしコン セントの電力は昨年よ り増加した。四半期目 標はようやく達成。
2月	8.2	118.78	109.57	88.46	124%	
3月	16.4	89.75	96.23	84.35	114%	
4Q		331.83	327.72	271.96	121%	
年間		1,336.72	1,370.67	1,084.56	126%	

目標より 3%オーバー

2017年度は目標に対して、年間で+3%と未達に終わりました。前述の通り、年間を通して、コンセント、照明の電力量が増加しており、換気や空調（電力、ガス）は手動切り替

えや温度設定の取り決めで月によっては一定の効果が合ったものの空調は電力、ガス共に増加したのが原因です。来年度は今年度の原因を踏まえ、目標の達成に向けて努力してまいります。

※赤字は対前年増加。

(3) 河内材の使用について

河内長野市は豊かな森林に恵まれ、古くから河内林業地として木材を生産してきました。河内長野ガスグループでは、新社屋を建設する際に、この地場産の河内長野杉を床面や壁面に用い、木の温もりを感じる空間に設えました。

また、社屋1階のセミナールームに設置された冷房・暖房空調は、大阪府森林組合の間伐材(河内材)を加工した木質ペレットをエネルギー源としており、これはカーボンニュートラルⁱⁱⁱとなり、二酸化炭素の増加を抑えます。



社屋内の様子



ペレット式空調屋外機



河内材のシンボルマーク

ⁱⁱⁱ カーボンニュートラルとは間伐材が植物として育成する過程で消費した二酸化炭素量と、燃焼時に発生する二酸化炭素量が同量となるため、全体で見ると二酸化炭素が増加しないという考え方の事です。

IV. 地域貢献への取り組み



河内長野ガスグループは、地域の企業としてお客さまとのコミュニケーションを図り、良き企業市民として河内長野地域に貢献するよう努めております。

2017年度も地域貢献として「地域防災への取り組み」、「地域とのふれあい」、「次世代育成の推進」の3つの柱を掲げ、取り組んで参りました。

1. 地域防災への取り組み

(1) 「災害発生時における河内長野ガス社屋『災害時支援施設』の開設・運営確認書」の締結

河内長野市と河内長野ガスは、2012年5月「災害時等における支援協力協定」を締結し、その後、産、官、民連携による勉強会^{iv}を経て、2013年3月に「災害時等における支援協力に関する細目協定」、そして2017年4月「災害発生時における河内長野ガス社屋『災害時支援施設』の開設・運営確認書」を締結するに至りました。その内容は、災害時支援ボランティアの方々向けに、災害時支援施設であるショールームや災害ベンチ、災害時用簡易トイレ（マンホールトイレ）等の災害支援設備の貸出しについて定めたもので、河内長野市と河内長野ガスが地域防災についてより強固に協力関係を築くことになりました。

なお、確認書の締結を受けて、2017年6月5日（月）、河内長野市の島田市長と榊井副市長、塩谷副市長ならびに市役所の方々をお迎えし、弊社の社屋を見学していただきました。



見学の様子

^{iv}河内長野ガスグループは、神戸大学社会科学系教育研究府 特命准教授 紅谷昇平先生のアドバイスのもと、市と市民団体、企業が連携して、万一の災害に備えて助け合う仕組みをつくっています。産官民が協働で防災まちづくりをすすめている自治体はまだまだ少なく、先進的な取り組みとして経済産業省のモデル事業に選ばれ、社会福祉協議会、るーぷらざ、地域まちづくり委員会、河内長野市、河内長野ガスグループが集まり、第1期（2012年10月～2013年2月）と第2期（2013年7月～2014年3月）に分けて勉強会を開き、それぞれの役割分担について話し合いました。

(2) 台風 21 号災害における災害対策活動に参加

10 月 22 日に上陸した台風 21 号の影響により、河内長野市河合寺地区、神ヶ丘地区を中心に、土砂が民家に流れ込む等の被害が出ました。

これらの災害に対応するため、10 月 31 日（火）、河内長野市社会福祉協議会が災害対策本部を設置しました。河内長野ガスグループは、同協議会からの呼びかけに呼応し、11 月 10 日（金）に 4 名、12 日（日）に 2 名の社員及び車両を派遣し、民家に流れ込んだ土砂の撤去や搬出作業を行う等、被災現場の復旧活動を支援しました。また、ボランティアの方々向けの飲料水を 20 ケースと活動資金として 5 万円を寄付いたしました。被災された方々が 1 日でも早く普段の生活を取り戻していただくことをお祈りいたします。



復旧活動の様子

2. 地域とのふれあい

(1) 「第 25 回河内長野市民まつり」へのブース出展

5 月 14 日（日）、第 25 回河内長野市民まつりが赤峰市民広場にて開催され、参加者は総勢約 15,000 名（主催者発表）と大変盛況でした。河内長野ガスはステージ協賛とブース出展し、地球温暖化や二酸化炭素の排出を抑えるため家庭でできる取り組みについてパネルを展示し、それをヒントにクイズに挑戦していただきました。暑い日だったにも関わらず、115 組の方に参加していただきました。



会場の様子

(2) 「第 48 回自衛消防隊部会 視閲式・消火技術錬成会」への参加

10月18日(水)河内長野市防火協会自衛消防隊部会の第48回視閲式並びに消火技術錬成会が、河内長野市小山田町の河内長野市消防本部屋外訓練場において開催され、河内長野ガスのほか、市内の各事業所が参加し、日ごろから積み重ねた訓練の成果を披露しました。河内長野ガスは、消火器競技の部で2位、屋内消火栓競技の部で3位という成績を収めることができました。お客さまの安心・安全を守るため、河内長野ガスは日々訓練を続けて参ります。



錬成会の様子

(3) 「第 18 回ボランティア市民活動フェスティバル」への協力

2月25日(日)、「第18回ボランティア市民活動フェスティバル」が市民交流センター(キックス)、河内長野市立市民公益活動支援センター(るーぷらざ)を中心に開催されました。昨年度に引き続き河内長野ガスグループショールーム「クラッシモ」のセミナー室を会場としてご利用いただき、全会場で合計約6,500名(河内長野ガス会場約350名)の方々が来場されました。セミナー室では、東北大地震で被災された岩手県大槌町の支援団体様や市役所危機管理課様によるパネル展示等が行われました。参加された方々のボランティアへの関心は高く、皆様は熱心に見学されていました。



会場の様子

河内長野市立市民公益活動支援センター(るーぷらざ)が主催し、河内長野で活躍する、ボランティア団体による活動を紹介するイベントです。

(4) 「みんな集合!!生活情報展」への参加

3月2日(金)、3日(土)ノバティ南館3Fにて、「みんな集合!!生活情報展」^{vi}がありました。河内長野ガスは毎年このイベントに出展しています。参加した方々にはガスマイコンメーター^{vii}に関するクイズに挑戦していただき、正解者には素敵な景品をプレゼントしました。両日で約300名の方が参加され、ガスの安全性を伝えることが出来ました。



会場の様子

(5) 「第12回大阪府無事故・無違反チャレンジコンテスト」金賞受賞

この度、河内長野ガスグループは、「第12回大阪府無事故・無違反チャレンジコンテスト」(期間：2017年10月1日から2018年3月31日)において、金賞を受賞しました。

「大阪府無事故・無違反チャレンジコンテスト」は、安全運転管理者選任事業所における安全対策の活性化を図る目的で、1997年から地区交通安全(自動車)協会の主催により、各地区単位の基準に基づいて実施されてきました。

2006年からは、その対象をトラック、バス、タクシー等の運行管理者選任事業所にも広げ、府下統一の実施要領に基づいた府大会とすることで、より多くの事業所と従業員(運転免許保有者)が参加することとなり、交通事故の抑止に努めていくことを目的としています。

河内長野ガスグループは、月1回の安全衛生委員会や週1回の一斉車両点検を実施することにより、従業員の安全運転意識を高めており、この賞は、全従業員が一丸となって臨んだ成果でした。

河内長野ガスグループは、地域の皆様との信頼を築いていくために、これからも安全運転に努めて参ります。



(6) 近隣清掃

^{vi} 「みんな集合!!生活情報展」は、河内長野市が主催し、河内長野市内の消費生活の各関係団体が日頃の活動の成果を持ちより、情報発信をする年に1度開催されるイベントです
^{vii} ガスマイコンメーターは、ガスの使用量を計量するだけでなく、電気のブレーカーと同じような安全装置を搭載しています。次の場合、ガスを自動的にストップし、メーターの表示ランプ(赤)を点滅させてお知らせします。

- ・大量のガスが流れたとき
- ・地震が起きたとき
- ・長時間ガスを使用し続けたとき等

河内長野ガスグループは、河内長野市の掲げる「河内長野市アドプト・ロード・プログラム」^{viii}に賛同し、本社周辺および「アドプト・ロード・フラム」と名付けられた歩道の清掃活動を毎朝行っています。2017年度は、更に全従業員が一斉に3回（4月、12月、1月）近隣清掃を実施しました。



近隣清掃の様子

3. 次世代育成の推進

将来を担う子ども達を、環境面において、教育していくことが河内長野ガスの社会的責任と考え、長年にわたり地道な活動を行ってまいりました。

(1) 「小学校環境教育出前授業」

2006年度より、ガスの供給を通じて地域にかかわる会社として、地域で学ぶ次世代の育成に貢献できればと考え、河内長野市教育委員会と連携し、河内長野市内の各小学校を対象に地球温暖化問題を中心としたエネルギー環境教育を行い、2017年度まで、延べ55の小学校に125回の授業を行いました。

毎年4月に河内長野市教育委員会から、河内長野市内の各小学校に向けて、環境教育出前授業の募集をしてもらい、応募があった小学校に出向いて、授業を行います。

現在、プログラムは3種類あり、「A：地球温暖化を学ぶ」、「B：くらしの見直し隊」、「C：ガスコンロのしくみ、燃焼のふしぎ」となっています。プログラムは、各小学校に選択していただいています。この活動が評価され、2016年度「おおさか環境賞」準大賞を受賞しました。

「A：地球温暖化を学ぶ」は90分授業で、前半は地球温暖化の影響や地球温暖化のしくみについて学び、後半では地球環境を守るために一人ひとりが毎日のくらしの中で省エネルギーに取り組むことが大切だということを、三択クイズや何の音かを当てる音当てクイズを通じて理解してもらいます。授業は各小学校の希望により45分の短縮版（短縮版名称：地球温暖化をさぐる／ストップ地球温暖化）もあります。

^{viii}河内長野市が管理する道路の一定区間において、地元自治会や企業等の団体が市と協力しながら継続的に清掃等のボランティア活動を実施し、地域に愛されるきれいな道路づくりや地域の環境美化に取り組む制度です。

「B：くらし見直し隊」は、45分授業で、二酸化炭素（CO₂）排出量を削減することについて、ゲーム形式で楽しく学びます。毎日のくらしを見直し、「地球温暖化を防止するために、毎日続けられること」を実践するきっかけを作ります。

「C：ガスコンロのしくみ、燃焼のふしぎ」は、45分授業で、6年生理科単元「ものが燃えるとき」に対応したプログラムです。理科授業の復習、ガスコンロを知ろう、燃焼実験という内容になっています。マッチ、ろうそく、ガスコンロの炎の観察と食材をつかった燃焼実験（あぶり）を通じて燃焼に必要な条件、燃え方の違い、火の色々な役割を知ります。

2017年度の活動内容

- ・ 2017年9月25日（月） 高向小学校 「地球温暖化を学ぶ」



- ・ 2018年2月1日（木） 三日市小学校 「くらし見直し隊」



(2) 「天見 子ども自然とあそびの教室」活動協力

河内長野ガスグループは小学生とその保護者を対象とした「天見 子ども自然とあそびの教室」^{ix}に協賛し、天見地区の自然（山野・川）を生かした種々の体験活動のサポートをしています。2017年度は5月から11月（8月を除く）まで、毎月1回、合計6回開催される予定でしたが、9月、10月は台風接近の為、内容を変更して12月、翌年1月に延期となりました。そのような天候の問題もありましたが、集まった河内長野市内の小学校の総勢36人の子ども達は、普段、あまり触れることのない自然を前に目を輝かせていました。

この度、この活動が評価され、主催の「天見子ども自然とあそびの教室」実行委員会と特定非営利活動法人NACは2017年度「おおさか環境賞」大賞を受賞しました。協賛・協力している河内長野ガス株式会社もその功績が称えられ、「おおさか環境賞」協働賞を受賞し、9月11日、大阪府庁で行われた授賞式で、弊社山本社長が大阪府竹内副知事より表彰状を授与されました。「おおさか環境賞」の受賞は、平成28年度の「小学校環境教育出前授業」に続いて2年連続の受賞となりました。

2017年度各月の活動内容

- ・5月 「野や山の宝物さがし」
- ・6月 「ネイチャーゲーム」
- ・7月 「竹のクラフト」
- ・9月 「川遊びと魚釣り」 ※台風の為中止
- ・10月 「どんぐり拾いとクラフト」 ※台風の為中止
- ・11月 「家族と一緒にカーニバル」
- ・12月 「天見の里山チャレンジハイク」
- ・1月 「落ち葉で焼きいもとゲーム」

^{ix}天見子ども自然とあそびの教室実行委員会とNPO法人ナック（NAC）が主催。天見公民館を活動拠点として、アウトドアリーダーと地域の福祉委員を中心に、小学生に地域の自然を体験してもらいます。

2017 年度活動風景



V. コンプライアンスの取り組み



河内長野ガスグループは、全ての役員および従業員が、コンプライアンスを確実に実施することで、地域の皆さまからの信頼を得る健全な会社を目指しています。また、コンプライアンスを法令遵守だけでなく、社会の一員としての良識ある行動までを含む企業倫理の観点から捉え、お客さま、取引先さまなど全ての人々と公正な関係を維持し、信頼をより強固なものとすることに努めて参ります。

1. コンプライアンス会議

河内長野ガスグループでは、月に1回、企業法務の専門家である追手門学院大学 教授水野浩児先生をコンプライアンス担当顧問としてお迎えし、ボードメンバーや社員代表からなるコンプライアンス委員によるコンプライアンス会議を開き、グループ全体のコンプライアンスに関する事案の対策検討、情報、意見交換を行っています。

2. コンプライアンスアンケート

河内長野ガスグループでは、全従業員を対象にしたコンプライアンスに関するアンケート調査を定期的実施し、全従業員のコンプライアンスへの意識付けをしています。また、コンプライアンスに関する問題の早期発見にも繋げる努力も行っていきます。

回答率：2016年度 95% 2017年度 98%

3. コンプライアンス研修会

河内長野ガスグループでは全従業員を対象に年に1回、水野先生を講師としてコンプライアンス研修会を実施しています。コンプライアンスアンケートと共に、全従業員のコンプライアンスに対する意識付けを徹底しています。

2017年度は、全従業員を対象に7月14日（金）、7月20日（木）の2日間、コンプライアンス研修を行い、6月に改定されたコンプライアンスマニュアルについての説明とSNSの取り扱い、労働時間管理の徹底等について講義が行われました。

検針員および協力会社にも、それぞれ9月12日（火）と10月13日（金）に研修会が行われました。

コンプライアンスマニュアルの改定は2012年に続いて今回で2回目となりますが、4月に開始されたガスの小売りの全面自由化に対応した内容を追加し、当社グループマスコットキャラクターのふらむちゃんをふんだんに登場させて、親しみやすい内容としました。

河内長野ガスグループは、これからも定期的に研修を行うことにより、全社員がコンプライアンスへの意識を高め、お客さまに信頼され、支持される企業を目指しています。



研修会の様子



コンプライアンスマニュアル表紙

4. コンプライアンス相談窓口

河内長野ガスグループでは、コンプライアンスを浸透させるため、従業員 1 人 1 人が問題意識を持つことや、またコンプライアンスを相談できる体制作りが重要と考えています。コンプライアンスに関する相談及び報告制度として、水野先生に直接相談できるコンプライアンス相談ラインを設置しています。

5. CSR 活動と河内長野ガスグループの地域社会に必要とされる決意

——コンプライアンス担当顧問 水野先生から河内長野ガスグループへのメッセージ——

河内長野ガスは地域密着型企业として、これまで河内長野市民の皆様とともに歩んできました。河内長野ガスグループの長期ビジョンに「地域のお客様の笑顔獲得ナンバーワン企業」と「地域のお客様に最も信頼され、支持される企業」と掲げていることは、「地域のための企業」であることを全役職員の気持ちの表れだと思えます。ところが、河内長野市の高齢化と人口減が急速に進み、地域の活力維持において多くの課題を抱えている状況にあります。一方で、元気な高齢者が増えていることや、河内長野市の都市圏からのアクセスや豊かな自然環境などを考えれば、将来への魅力は十分ある環境だと思えます。その河内長野市を盛り上げるために河内長野ガスグループにできる事は沢山あると考えられます。2017年に発足した「将来構想検討委員会」では河内長野市に関連する有識者や行政の方がメンバーとなり、河内長野市の発展をあらゆる角度から話し合っています。地域のインフラを担う河内長野ガスグループは地域の為になんでも積極的に行う機運が出てきているように感じています。

CSR活動を河内長野ガスグループのメンバーの皆さんに身近に感じていただく取組として、平成30年より地域で頑張っているメンバーを表彰する制度の創設に向けて動いています。自治会やPTA等の活動を含め地域の為に積極的に活動するメンバーをグループとして盛り上げようという趣旨から考えられたものです。河内長野ガスグループは地域社会に必要とされるためにCSR活動を積極的に行う積み重ねが、河内長野市の活性化に繋がると考えています。

もちろん、河内長野ガスグループの最大の使命は、暮らしに欠かせないガス供給を「安全」「安心」と感じていただき円滑に行うことは当然です。その前提があつてこそ、地域社会から絶対的な信頼を得る事が出来ることは忘れてはなりません。

2017年4月からガス事業の自由化がスタートし、本当の意味での河内長野ガスグループの実力が発揮されるときが来たように思われます。おおさか環境賞にて2016年・2017年と連続して受賞した「小学校環境教育出前授業」と「天見子ども自然と遊びの教室」は継続的に活動を行い、地域の皆様に高い評価をいただいていると思います。CSR活動は地道に行うことが基本であり、日々の活動を継続的に行うことで高い評価を得る事ができます。CSRレポートは地道に活動した内容を内外に知っていただくことを目的にしていますので、グループの活動を再認識いただければ幸いです。地域発展が河内長野ガスグループの使命であることを決意し、これからも地道な活動を行いましょう。



追手門学院大学 経営学部学部長 教授 水野浩児